

第19回 複合型サービス ひと息の村 運営推進会議議事録

日時 平成28年 6月 1日(火) 14時～

場所 ひと息の村 相談室

(参加者)

木原 和人氏 (宮前老人クラブ会長)
大澤 哲夫氏 (宮前・北町区民生委員)
上村 真弓氏 (元利用者家族)
品川 典子氏 (行橋市介護保険課)
重原 加奈子氏 (行橋高齢者相談支援センター)
稲田 裕紀氏 (中京高齢者支援センター)
中越 寛信氏 (中京高齢者支援センター)
高橋 千穂氏 (中京高齢者支援センター)
矢津 剛 (矢津クリニック理事長)
矢津 久美子 (矢津クリニック)
白川 美弥子 (ひと息の村 訪問看護ステーション 管理者)
余村 徹 (複合型サービス ひと息の村 管理者)
桃木 靖典 (複合型サービス ひと息の村 管理者代行)

議事次第

- 1、 第18回運営推進会議 議事録の確認
- 2、 利用状況についてお知らせ
平成28年 4月 1日～平成28年 5月31日までの利用状況、報告

【登録利用者数】 10名 (2名入院中 6月1日時点)

男性	女性
4 (3) 名	8 (7) 名

【要介護度】 平均介護度 3 (2.8)

要介護1	4名
要介護2	2名
要介護3	2 (1) 名
要介護4	1名
要介護5	3 (2) 名
区変中	1名

【圏域】

行橋高齢者	4 (3) 名
長峽高齢者	2 (1) 名
今元高齢者	1 名
中京高齢者	3 名
泉高齢者	2 名

【平均年齢】 82.9 (83.5) 歳

【病状内訳】

- ・ DM・・・2 名
- ・ 多系統委縮症・・・1 名
- ・ 悪性リンパ腫・・・1 名
- ・ 廃用症候群・・・1 名
- ・ COPD・・・1 名
- ・ 喘息・・・1 名
- ・ 筋委縮性側索硬化症・・・1 名
- ・ 腎不全・・・2 名

(入院中)

- ・ 副鼻腔アスペルギルス症・・・1 名
- ・ アルツハイマー・・・1 名

【状況】 4 月・5 月平均

	日	月	火	水	木	金	土
通い	2 人	5.1 人	4.7 人	4.5 人	6.4 人	3.9 人	5.9 人
訪問	0.8 件	1.1 件	0.7 件	1.5 件	0.6 件	1.7 件	1.9 件
泊り	1.7 人	0.4 人	0.3 人	0.4 人	0.1 人	1.7 人	1.7 人

6 月予定 《10 名 6 月 1 日現在》

	日	月	火	水	木	金	土
通い	2 人	5.3 人	4.5 人	4.4 人	6 人	4 人	5.5 人
訪問	2 件	2.3 件	3.8 件	2 件	4 件	2 件	4 件
泊り	1.5 人	0.8 人	0.5 人	0.4 人	0 人	1.5 人	1.5 人

3、近況状況

* 4/4 膝がん患者利用開始 (介護 3・女性)

* 4/5 運営推進会議

* 4/6 NPO 法人たんがく (久留米市) 施設見学

* 4/12 若年性アルツハイマー患者永眠 (新行橋入院中)

- * 4/18 多職種連携講演会（コスメイト）
- * 4/21 アルツハイマー患者永眠（ひと息にて）
- * 4/24 ひと息の村ホスピス祭り
- * 5/1 膝がん患者永眠（自宅にて）
- * 5/2 北公民館にて看護小規模多機能説明会
- * 5/4 宮前区神幸祭参加
- * 5/11 喀痰吸引説明会（ウェルネス ジョブカレッジ）
社内勉強会（エンゼルケアについて）
- * 5/14 星の会
- * 5/25 社内勉強会（口腔ケアについて）
- * 看護小規模再生プロジェクト発足

4、6月、7月の行事予定

6月 避難訓練・実務者研修

6/1 看護小規模多機能について勉強会（訪問看護・看護小規模多機能）

6/5 歯と口の健康フェア（パンジープラザ）

6/21 集団指導

7月～喀痰吸引等研修開始

5、次回の開催について

次回 8月3日（水） 14時～

(意見交換)

余村：「地域の方も、ひと息の村が何をやっている所か分からないとの意見や、癌の末期になったら関わる所でしょ？などといった意見もある様なので、もっとひと息の村を地域に開放して、どんなことをやっている場所なのか分かって貰う様にしないといけないのですが、オートロックの件や、居住者のプライバシーの問題、場所の問題等、まだ院長と話ができていないのが現状です。」

「避難訓練の日程や内容がまだ決まっていませんので、日時が決まりましたら、また老人会にもお知らせしますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

また、気候がよくなってきたので、外出レク等も臨機応変に出来ればと考えています。先日の日曜日も、通いの利用者さん 3 名ですが、現地でご家族と待ち合わせをして、行橋の桜祭りに参加して来ました。」

霍田氏：「ロームの近くや、今川上流の犀川あたりも、花が綺麗に咲いていますね。利用者さんも喜ばれると思います。

しかし、利用者さんが減少していますが・・・」

余村：「何か良いシステムみたいなものがあれば良いのですが・・・」

霍田氏：「地域の交流の場というか、コミュニティーセンターみたいな所から、利用者さんが来てもらえる流れみたいなものがあればいいと思うのですが・・・」

上村氏：「前回市報にひと息の村が掲載されましたが、反響はありましたか？」

余村：「電話での問い合わせが 2 件くらいでした。それもサービスの利用には繋がりませんでした。もっと反響があると思っていたのですが・・・」

霍田氏：「民生委員の協議会でも時間をとって、看護小規模多機能の説明をしていただく事も出来ます。」

上村氏：「まずは通いサービスを使ってもらって、それから医療や泊りの事をもっとアピールしても良いと思います。市報には、通いサービスの事は、あまり前面に出ていなかった様に感じました。」

霍田氏：「上村さんと同感です。今日も病院に薬を取りに行きました。今は自分で行けますが、動けなくなったら介護保険申請しないとどうしようもない。医療には大体の高齢者がお世話になっています。そこに介護が

プラスされて・・・、そういう人たちが集まって、話が出るようなものが出来れば・・・と思います。

行橋市も、今度生活支援協議会というのが始まるらしいです。コーディネーターをどうするかが問題みたいですが・・・。実際幾つかの介護事業所で、地域コミュニティーセンターみたいな所を借りて、コソコソと活動している所もあるみたいです。看護小規模多機能は別として、小規模多機能は市の支援を受けながら、地域の人たちが集えるスペース、拠り所、交流の場を作りつつあるみたいです。」

岩本氏：「中京高齢者相談支援センターの中京校区の“おとぎの里”で、地域交流ステーションが、そこの方だけではなくて、地域の方や、行橋全体のどこでも利用できます。但し、そこまでは自分で行かないといけませんが・・・。一週間に一回、そこで運動したり体操をしたり・・・そこには高齢者相談支援センターも参加しています。あとは、だんだん自主的に活動していくのですが、各校区でそういった活動をだんだん広げていくと思います。要支援の方は、週一回位しかデイサービスを利用出来ないですよね。いきいきサロンもあるのですが、そういったところにも参加されない方、行き場のない方、人との交流の場がない方の為にそういう場を作って、なるべく出てきていただく場を提供するようにしています。」

霍田氏：「市内のいきいきサロンでも、参加されているのは女性が多い。男性に参加してもらうには、役割を与えないと出て来ないですね。」

余村：「ボランティアさんもそうです。役割がないと、男性の場合はなかなか参加してもらえないですね。」

大澤氏：「先日会議があったので、ひと息の村を知っているか、参加者に聞きました。そうすると、あそこは癌になったら相談に行くところですよ？と回答がありました。これではいけないと思いました。6月9日にまた会議がありますので、そこでひと息の村についてお話しさせて頂こうと思っています。近くにこんな素晴らしいところがあるのに、是非知って下さい・・・と。」

上村氏：「やはり通所サービスから知って貰わないと・・・。そういった事に興味があるのは、やはり年配の方なので、年配の方にも分かり易い言葉で、市報でも発信してもらえたら・・・と思いました。でも、立派な市報が出来たと思いますよ。」

霍田氏：「5月の第一月曜日に、北公民館へ高齢者相談支援センターに来てもらって、民生委員も加わっての会議があるので、その中で看護小規模多機能の説明をしてみたらどうでしょうか？また追ってお知らせしますので。」

上村氏：「何か月かに一回でも、地域の人に場所を解放して、地域の人に協力してもらいながら、自由に食べ物や飲み物は持参してもらって、雑談する場を提供してみてもいいですか？出掛けて行ってお話しすることもいいでしょうが、まずひと息の村の中に入ってもらうことで身近になるのではないのでしょうか？独居の人たちが集まって、こういったところで話が出来るのが良いと思います。」

池本：「入居の方もいらっしゃるのですが、そここのところは院長に確認してからになると思います。」

霍田氏：「ひと息に入る時は、どうしてもオートロックを毎回毎回解除してもらわないといけない。そこをどうやってクリアするかも問題だと思います。」

池本：「方法は色々あると思います。例えば日曜日など利用者の少ない時に、通いスペースを使って、地域の方に開放したサロンのようなものにするか……。いずれにしても、院長に確認してからの話にはなると思いますが……。」

上村氏：「実るかどうか分かりませんが、とりあえず種を蒔いてみないとわかりませんよね。実行してみないとですね。」

余村：「池本がメインになって、近隣の病院の連携室に営業には行っていますが、サービスにはまだ繋がっていない状況です。」

霍田氏：「癌で家族を亡くしたという経験者が、緩和ケアをして頂ける場所があるというのは幸せだと思います。都市部でも緩和ケアとありますが、大病院よりは、こじんまりした中でこそ、家族的なケアが出来るのではないかと思います。」

余村：「地域での独居の方は、現在どれくらいいますか？」

霍田氏：「宮前では、あるところからずっと増えて、60世帯くらいです。10年前に比べて、3倍くらい増えています。北区では560世帯くらいあります。」

大澤氏：「病院は死ぬ所ではなく、治療をする所。自宅に戻って、自宅でどうするか・・・という事を考えなくてはいけないと思います。そういった話をさせてもらう機会がありました。次回6月9日に、その続きをさせて頂こうと思っています。」

余村：「色々な場所での広報、ありがとうございます。引き続き、宜しくお願い致します。」

以上